

10) 現地普及活動事例の紹介

(1) 戦略作物で、地域農業がバリューアップ!!～高収益型経営モデルの実践による経営の安定化～

檜山振興局 檜山農業改良普及センター

1 はじめに

厚沢部町は、道南渡島半島のほぼ中央に位置する山間の町で、主要作物は水稲、馬鈴しょ、豆類、野菜である。

経営面積5 ha未満の小規模な農家割合が49%を占め、高齢化も進んでおり、後継者が残るには経営の安定化が大きな課題であった。

米価をはじめ主要農産物価格が低迷し、農業所得が伸び悩んでおり、確実に所得が得られる高収益型農業への転換が求められていた。

2 活動の経過

(1) 高収益型経営モデルの提案

普及計画の重点課題として、平成17年度から厚沢部町富栄東地区（以下重点地区）を対象に、所得拡大にむけた高収益型農業の推進に取り組んだ。活動を展開するにあたり、重点地区で懇談会、個別巡回、アンケート調査を通じて対象農家のニーズを把握するとともに所得目標の設定を行った。

その結果3つの高収益型経営モデルを提案し、3戸をモデル農家に設定した。

提案した経営モデルは、①高収益なハウスアスパラガス導入モデル、②軽労働野菜ブロッコリー導入モデル、③水稲直播栽培導入モデルの3タイプである（表1）。

(2) 試験成果を利用した効率的活動

アスパラガスは「アスパラガスハウス立茎栽培の品種特性と栽培ガイド（2005年・花野菜センター他）」等を参考に栽培マニュアルを作成し、指導を行った。水稲直播栽培は、雑草対策が課題であったことから、「水田雑草の発生予測と予測に基づいた防除方法（1999年・上川農試）」を参考に指導を行った。

3 活動の成果

(1) モデル農家の実践状況

ア ハウスアスパラガス導入モデル（A農家）

檜山の特性を生かし、通年被覆型栽培とするこ

とで、早期出荷が可能となり、立茎後の整枝技術や収穫後の茎葉処理方法の改善により、一般ハウス栽培に対し、約1.6倍の収量となった（図1）。

A農家の収量は5カ年平均で2,576 kg/10aとなり、21年度の農業所得は17年対比149%と向上した（表2、図2）。

イ ブロッコリー導入モデル（B農家）

ブロッコリー導入面積の適正化を図り、透排水性の確保、適期防除を中心に指導を行った結果、B農家の3カ年の平均収量は3,064 玉/10aと目標を上回った。21年度の農業所得は導入前に比べ131%と向上した（表2）。

ウ 水稲直播栽培導入モデル（C農家）

C農家では、育苗から移植に係る時間が12%減少したことから、軽減された春労働を利用して、ハウスアスパラガスの作付面積を拡大し、所得の増加につながった（表2）。

(2) 重点地区の変化

モデル農家に刺激を受け、重点地区内でさらに2戸が、ハウスアスパラガスやブロッコリーを導入をした。これらの経営モデルの実践により、平成17年時点でゼロであった後継者が、19年に1戸が就農、さらにもう1戸でUターンが検討されるなど確保の方向にある。

(3) 地域への波及

ア モデル農家の成果事例を活用した講習会等を行った結果、全町で振興作物であるハウスアスパラガス、ブロッコリーの新規作付者が増加し、作付け面積が拡大した（図3）。

イ ハウスアスパラガスは、平成22年度農協取り扱い額2億円を達成した。

4 今後の展開

調査・研究活動の結果を基に、施策変化に対応した経営モデルの見直しを行い、各関係機関と連携し所得拡大による「後継者が残る活力のある地域づくり」を目指す。

表1 項目別活動の経過

年度	経営モデル		
	高収益作物導入	水稲直播栽培	軽労働野菜
H17	ハウスパラガスの導入推進	水稲直播栽培の推進	
H18	栽培技術の確立	栽培技術の向上	ブロッコリー導入提案 ↓ ブロッコリー導入推進
H19		栽培技術確立	ブロッコリー導入推進
H20	取り組み面積拡大		導入拡大
H21	周辺地域に波及		低コスト技術導入 (施肥法の改善)

表2 モデル農家の収量と農業所得の増加

モデル農家	区分	H17	H18	H19	H20	H21	平均
ハウスパラガス導入モデル(A農家)	アスパラガス収量 (目標 2,500 kg/10a)	2,163	2,244	2,779	2,718	2,457	2,576
	農業所得 (H17 対比)	100	107	132	90	149	—
ブロッコリー導入モデル(B農家)	ブロッコリー収量 (目標 3,000 玉/10a)	—	—	3,258	3,255	2,680	3,064
	農業所得 (H17 対比)	100	98	139	86	131	—
水稲直播導入モデル(C農家)	水稲直播収量 (目標 480 kg/10a)	442	435	420	510	482	458
	農業所得 (H17 対比)	100	118	90	136	144	—

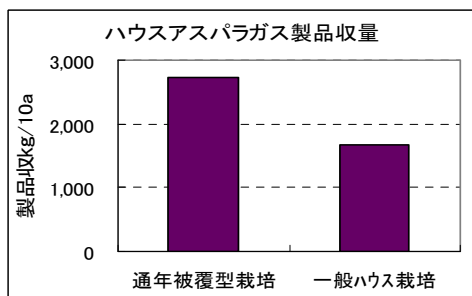


図1 通年被覆型栽培の増収効果

作物	H16実績 (面積a)	提案 (面積a)	H21実績 (面積a)
水稲 移植栽培	700	700	700
畑作 馬鈴しょ	40	—	—
野菜 ハウスアスパラガス	—	10	10
花き りんどう	40	40	70
緑肥	20	50	20
農業所得(万円)	108	250	507

農業所得目標 **250万円**
ハウスアスパラガスを導入
H17~21年 実績の検討 栽培技術確認 目標の見直し

図2 経営モデルの提案と実践—A農家の例—

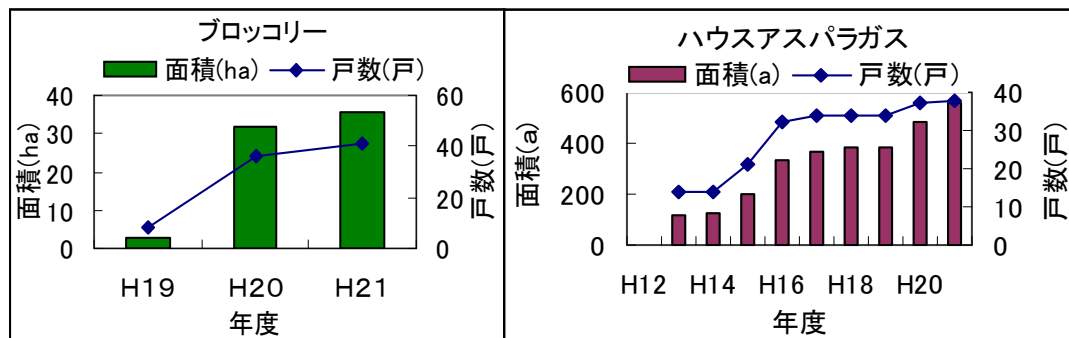


図3 ブロッコリー、ハウスアスパラガスの導入状況(厚沢部町)

